

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター
令和元年度 年 報



はじめに

北海道の東部に位置する釧路地方は、釧路湿原と阿寒摩周の二つの国立公園やラムサール条約登録湿地等、雄大な自然環境に恵まれた地域です。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林の特徴を踏まえて、森林環境教育等に携わる教育関係者、ボランティア団体・地域住民、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。

この度、令和元年度の主な活動内容がまとまりましたので、ご覧下さい。

目 次

森林環境教育の取組み	・・・・・・・・・・	1 頁
【学校林活動】		
地域との連携・普及啓発等の取組み	・・・・・・・・・・	3
【地域と連携した取組み】【普及啓発の取組み】【広報活動】		
自然再生・生物多様性保全の取組み	・・・・・・・・・・	8
【釧路湿原自然再生協議会】【雷別ドングリ倶楽部】【野生生物調査】		
活動区域及び所在地		

森林環境教育の取組み



釧路町立富原小学校

ドングリ、大きくなぁ〜れ 10月24日(木曜日)

この授業は、釧路湿原を守り保全する自然再生の活動の一環として、釧路町達古武地域で採れたミズナラのドングリをポットへ播種し・苗木を育て・現地へ植樹する取組みについて、当センターと環境省釧路自然環境事務所、(公財)北海道環境財団が連携して行ったものです。

当日は同校の小学4年生2クラスの児童と先生が参加し、釧路自然環境事務所の担当者からドングリの取り方と選別、植える時のタネの向きや土のかけ方等を説明しました。当センターは、マルチキャビティコンテナとポットで育てた苗について、根の成長や植栽後の伸長等の違いを説明しました。また、ミズナラとカシワについて、葉や殻斗の違いを説明しそれぞれの実物を手渡したところ、子どもたちは興味深そうに見て・触って、違いを確かめていました。その後、タネの播種となりましたが、子どもたちはドングリを植えるのを楽しみにしていたのか、颯爽と花壇へ駆出し、準備していたポットに土を入れ作業を始めました。中には、「大きくなってね。」とドングリに声を掛けながら作業を行う子どももおり、この先の成長を楽しみにしている様子が見られました。



▽当センターの説明を聞く様子



▽ドングリを植えている様子

【学校林活動】

標茶町立中茶安別小中学校

春の学校林活動 5月20日(月曜日)

第1回目の活動は、始めに昨年の秋の活動で設置した「冬囲い」の撤去が行われ、子ども達は慣れた手つきで、ネズミ等の食害に遭わないよう、根元に被覆していたペットボトル等を外していました。

その後、伐採跡地へ移動し、児童・生徒や先生、保護者や地域住民の方々、標茶町森林組合の担当者が参加して植樹が行われました。1時間半程で、ナナカマド・ミズナラ・シラカンバ・アオダモ・トドマツ・エゾマツ・カラマツの7種・500本が植栽され、子ども達は「大きく育ちますように」と、願いを込めて植えていました。

最後にまとめとして、当センター職員から植栽した苗木を育てるため、これからどのような手入れが必要かを説明し、春の学校林活動は終了しました。



▽植樹の説明を聞いている様子

夏の学校林活動 8月22日(木曜日)

第2回目の活動は、5月下旬に植樹した7種・500本の調査と併せて、植栽木を野生生物の被害から保護することを実感してもらうために、保護管(ツリーシェルター)で被覆しました。

始めに、当センターから活動内容や注意事項等を説明した後、児童は2班に分かれ役割分担をして、シラカンバやミズナラの活着や食害状況を調べるとともに樹高を測りました。その後、児童と先生でツリーシェルターを組立てたところ、用意したものはあっという間に組上がり、シラカンバ・ミズナラ・ナナカマド・アオダモ・カラマツに被覆しました。

児童からは、「もう、できた。」や「もう一本、組立ててもいいですか。」等の声があり、楽しみながら取り組んでいたようです。



▽植栽木の樹高を測る様子



▽保護管を組立てる様子

秋の学校林活動 10月25日(金曜日)

第3回目の活動は、「トドマツの「下枝切り」と「ヒグマに遭わないため」のレクチャーを企画しました。

始めに、児童・生徒は2班に分かれ、上級生は下級生に手順を教えながら役割を分担して「実のなる木の冬囲い」を行いました。

その後、当センター担当者から、木を植えると植えた木の手入れが必要であり、今日はそれらの作業から「下枝切り」を行うこと、また、鋸の使い方や実施に当たっての注意事項を説明しました。子どもたちは3班に分かれ、一人ひとり手鋸を持ち、学校林に植栽されているトドマツの下枝切りを行いました。初めて、手鋸を使い下枝切りをする子どもがほとんどでしたが、作業を楽しみながら次々と下枝を切落とし、周囲は木の香りに包まれていました。

最後は「ヒグマ」について、その生態、糞や足跡の見分け方、出遭ってしまった時の対処方法等を説明し、子どもたちに「ヒグマ」に出遭わないためには、どうしたら良いかを考えてもらいました。



▽下枝切りをする様子

閉会式ではまとめとして、校長先生が子どもたちに「近隣では、学校林で様々な活動を行っているのは、この学校だけです。大きくなってもこのことを思出し、活動が認められて内閣総理大臣から表彰を受けたことを誇りに思ってください。」との話があり、今年度の学校林活動が終了しました。

地域との連携・普及啓発等の取組み

【地域と連携した取組み】

釧路市こども遊学館

ふれあい木工作 4月27・28日（土・日曜日）

釧路市こども遊学館がゴールデンウィーク期間中に行う人気行事で、民間団体等が協力・出展し、木のおもちゃの展示や木の工作会等が行われました。



▽木工クラフト作りの様子

当センターはこども遊学館のスタッフとボランティアの皆様にお手伝いいただき、マツボックリや木の枝・輪切りの木等の森林の恵みで木工クラフト作りを行いました。

今年のゴールデンウィークは10連休となり、27日午前中は参加者が少なかったものの、2日間で80名程度の参加があり、親子で木工クラフト作りに熱中する様子が見られる等、用意した席がなかなか空かない状況となり整理券が出される程の盛況となりました。

標茶町

子どもの夢を育てるまつり 7月28日（日曜日）

あしたを担う子どもたちの夢を育むとともに、世代間の交流を通じて、地域の連帯意識の高揚を図ることを目的として開催され、町内や近隣の様々な団体が出展し、金魚すくいやヨーヨー釣りの水遊び、ミニSLの運行等が行われました。

当センターは、マツボックリや木の枝・輪切り等の森林の恵みで木工クラフト作りを行ったところ見本を指差して、「こんなの作りたい！」と先にイメージを決めてから取掛かる子、「この飾り全部使っていいの？」とマツボックリにビーズ等の装飾をたくさん付ける子、また、創作意欲があふれ出し超大作を作る子等、子どもたちの発想力の素晴らしさに感心する一日となりました。



▽当センターブースの様子

釧路総合振興局森林室・北海道教育庁

初任段階教員研修 8月6日（火曜日）

釧路総合振興局森林室と国有林（根釧西部森林管理署・当センター）が連携して、パイロットフォレスト国有林で「初任段階教員研修」に取組みました。

この研修は北海道教育庁釧路教育局と根室教育局が、採用3年目の教員を対象に「木育体験等」をテーマとして行ったもので、今年度は中標津町の小学校と高校に勤める3名の先生が受講しました。



▽森林整備作業の解説を聞く様子



▽泥水のろ過を観察する様子

3日の研修期間のうち、初日は釧路総合振興局森林室と国有林（根釧西部森林管理署・当センター）が連携し、森林整備作業現場の見学や森林環境教育の進め方等を企画しました。

まず始めの「森林整備作業現場の見学」では、森林整備を受注している事業者の協力を得て、高性能林業機械による伐倒・枝払い・玉切り・集材等の実演が行われ、大きなカラマツがあつという間に丸太となり搬出されていく光景に、研修生は驚きの声をあげていました。昼食後は、研修棟で森林管理署の担当者が、木の枝や葉・花等の森林の恵みを用いたバードコールと万華鏡の作り方を解説し、研修生からは「これ、子どもたち喜ぶね。」等の感想がありました。その後、森林整備の解説と併せて、パイロットフォレストの造成を記録したDVDを視聴しました。

当センターは、森林の公益的機能を解説し「水源かん養機能」では、ペットボトルで作成した簡易ろ過装置で、泥水がろ過される様子を観察してもらい、豊かな森林の役割を実感いただきました。研修生からは「こんなに広い森林が人工林と知り、びっくりした。」や「環境教育に力を入れていきたい。」等の感想がありました。

白糠町

カミングパラダイス 9月7・8日（土・日曜日）

駅前の南通り商店街を開放して行われるもので、地元住民による露天やフリーマーケット、スマートボール等の懐かしい遊びのコーナーさらに、今年で100周年を迎える郷土芸能「駒踊り」の披露等が行われるものです。

当センターは、白糠町緑化推進委員会の木育の取組みと連携し、マツボックリや木の枝・輪切り等の森林の恵みで、木工クラフト作りを行いました。子どもたちに、



▽当センターブースの様子

思い思いの作品を作ってもらったところ、端材を沢山使った大きな作品や木の輪切りにかわいらしい顔を描いた作品等、子どもたちの個性がキラリと光る作品が沢山ありました。また、羊を作る子どももいて、身近に羊牧場がある白糠町らしさを感じる作品もあり、当センターのブースに訪れた皆さんの笑顔も印象に残る一日となりました。

西松建設株式会社

企業との協働による広葉樹の森林づくり 9月14日（土曜日）

札幌市に支店をおく企業が、これまで主に道央で行っていた社会貢献活動について、平成29年度から当センターと協働し、雷別国有林（標茶町雷別）で取り組んでいるもので、当日は笹地11にハルニレ・ヤチダモ・ミズナラ（計200本）の植樹と併せて、植栽木をエゾユキウサギの食害から保護するため、保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。

当センター職員による、作業に当たっての注意事項の説明と植樹指導の後、参加者は苗木を受取ると足早に作業箇所へ向かい手際良く植樹され、用意した苗木はあっという間に植え終わりました。休憩の後には保護管の組立てや被覆等を行い、参加者の見事な連携でこれらの作業もあっという間に終わり、当初予定していたスケジュールより早く閉会となりました。参加者からは、昨年植栽した苗木の生長を目の当たりにして「10年・20年後の苗木の生長が楽しみです。」や「1年でこんなに大きくなるのですね。」また、「来年もここに来て木を植えたい。」等の感想がありました。



▽植樹の様子



▽保護管被覆の様子

弟子屈町

子ども木育デー 10月5日（土曜日）

町内の小学生を対象に森林の仕事や木をテーマとした様々な体験を通して「木を身近に感じる」ことを目的とし弟子屈町が主催したもので、木育マイスター道東支部・てしかが自然学校、国有林（根釧西部森林管理署・当センター）が連携して実施したものです。

当日はあいにくの小雨模様で、当初予定していた「森林のお仕事体験」は中止となりましたが、ウッドプレート作り等、木をテーマとした様々なブースで自由に木工クラフトを作成できる「木育ひろば」が時間を早めて開始され、当センターは「フォトフレームの飾付け」を行いました。



▽集合写真

子どもたちは「木育ひろば」が始まると次々に各ブースに訪れ、グルーガンを片手にフォトフレームを組立て、ドングリやマツボックリ、アイスの棒等で飾付けし、オリジナルティあふれるフォトフレームを作っていました。ふりかえりでは、「フォトフレームの飾付けが楽しかった。」との声もあり、子どもたちの笑顔と元気な声が響く一日となりました。

釧路町村会・くしろ森と緑の会

木育・森づくりフェア 10月19・20日(土・日曜日)

木育の取組みを通して協働の森づくりへの関心を高めるため、地域住民の方々に「木とふれあう機会を提供」し、「森林づくりの重要性」や「木の良さ」等への理解を深めていただくことを目的として、釧路町村会プロジェクトチームとくしろ森と緑の会が呼びかけ人となり、国有林や釧路総合振興局森林室、関係行政機関等が連携して開催されたものです。

会場には、釧路管内の木育・植樹活動を紹介する「パネル・木製品展示コーナー」、木の玉のプールや積み木で遊ぶ「木とのふれあいコーナー」、カラマツを使った箱椅子づくりができる「木育広場」、木の葉や輪切り、枝等で木工クラフトが作成できる「木工作体験コーナー」等、様々なブースが設けられました。



▽当センターブースの様子

当センターは根釧西部森林管理署と連携して、マツボックリや木の枝・輪切り等の森林の恵みで「ミニツリー」作りを行ったところ、開始早々から親子連れが続々と当ブースを訪れ、ミニツリーの見本を参考に材料選び、木工クラフト作りを楽しんでいました。また、午後からは来場者はさらに増え、用意した席がなかなか空かない状況で会場は大いに賑わいました。

釧路市・釧路森林資源活用円卓会議

くしろ木づなフェスティバル 11月9・10日(土・日曜日)

釧路管内の団体や企業・関係行政機関が消費者と交流し、釧路産木材の需要拡大を促すこと等を目的として開催され、森林・林業・木材産業の紹介、木製品の展示や高性能林業機械の実演が行われました。

当センターは根釧西部森林管理署と連携し、マツボックリやドングリ・木の枝や輪切り等の森林の恵みを材料とした「ミニツリー」作り、「お山ん画」の展示等を行いました。

開場直後から、国有林ブースには次々と親子連れが訪れ、見本でこれから作る作品のイメージを膨らませて材料を選び、「ミニツリー」を作っていました。今回の森林ふれあいの取組みも親子で一緒にクラフトを作る姿が多く見られ、作品が完成した時には皆が笑顔になり、嬉しそうに作品を持ち帰っていました。

2日間にわたるイベントは、常に賑わっており、会場に訪れた方々はそれぞれのブースで、木とのふれあいを楽しんでいるようでした。



▽当センターブースの様子



▽会場の様子

【普及啓発の取組み】

京都大学・北海道大学・琉球大学

森里海連環学 9月13日（金曜日）

京都大学・北海道大学・琉球大学が、京都大学の北海道研究林標茶区と北海道大学の厚岸臨海実験所を拠点とし、上流の森林と厚岸湖・厚岸湾、そして、これらをつなぐ別寒辺牛川を対象として、森林植生・水生生物・土壌・堆積物等に係る実習を行っており、その一環としてパイロットフォレスト国有林を訪れたものです。



▽望楼から眺望する様子

まず始めに研修棟で、当センターの活動内容を説明した後、パイロットフォレスト造成時の様子を記録した DVD を学生の皆さんに視聴してもらったところ、造成に係る様々な質問がありました。機械庫を見学した後、望楼へ移動しカラマツ造林地を眺望しました。当日は視界良好の秋晴れで、学生は望楼から眺望する広大な森林の風景に感動している様子で「また、見に来たいです。」等の声がありました。

パイロットフォレスト国有林見学会 10月27・28日（日・月曜日）

厚岸町と標茶町に広がるパイロットフォレスト国有林で、根釧西部森林管理署と当センターが連携して見学会を開催しました。この催しは、パイロットフォレスト造成の様子を記録した DVD の視聴や造成当時に使用されていた機械を地元住民の方々へ紹介するとともに、林内にそびえ立つ高さ 24m の望楼は当センターがご案内し、カラマツの黄葉が広がるパイロットフォレストを眺望していただくものです。



▽360° 見渡せる望楼

27日（日曜日）の午前中は霧が立ちこめ、眺望は良くありませんでしたが時折、エゾシカや野鳥の鳴き声が真っ白な林内に響き渡り、幻想的な雰囲気を感じていました。一方、午後からは霧が晴れて青空が広がり、雄阿寒岳・雌阿寒岳の稜線が見えるまでに天気が回復しました。

霧で覆われたり、晴れ渡ったりと様々な顔を見せたパイロットフォレストでしたが、参加者した方々はその時々景色に発見し、眺望を堪能していました。

【広報活動】

当センターは、イベントのご案内や活動状況等について、ホームページと広報誌「飛鶴の森林から」で情報発信に努めています。

今年度、広報誌「飛鶴の森林から」は No140 ～ No146 を発行し、当センターの森林環境教育や自然再生の取組み等を掲載していますので、是非、ご覧下さい。

ホームページ (http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html)

飛鶴の森林から (http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/letter/index.html)

自然再生・生物多様性保全の取組み

【釧路湿原自然再生協議会】

再生普及小委員会

再生普及推進のための連携チーム会合「第9回」 5月23日（木曜日）

再生普及小委員会「第33回」

6月25日（火曜日）

森林再生小委員会「第19回」

10月31日（木曜日）

森林再生小委員会では、森林の再生（野生動物の生息環境修復を含む）に関する実施計画とその実施状況、モニタリング結果等を検討しています。

当日の午前は「達古武地域自然再生事業地」（環境省釧路自然環境事務所）で、育苗施設やカラマツ林の間伐区と植栽区、調査区等を視察しました。現地では、釧路自然環境事務所担当者から、育苗や間伐等について説明があり併せて、質疑応答が行われました。

午後からは、釧路地方合同庁舎に場所を移し小委員会が開催され、当センターが取組んでいる「雷別地区自然再生事業」と釧路自然環境事務所の「達古武地域自然再生事業」について、本年度の取組み状況や次年度の予定の説明があり、意見交換が行われました。



▽現地視察の様子



▽意見交換の様子

再生普及小委員会「第34回」

12月20日（金曜日）

再生普及小委員会は、釧路湿原の自然再生に関する様々な活動に、より多くの地域住民に参加していただくため、効果的なPR方法等の検討をしています。

今年度第2回目となる今回は、第3期行動計画の評価や次期行動計画（案）等について事務局から説明があり、意見交換が行われました。



【雷別ドングリ倶楽部】



平成 19 年 7 月から活動している「雷別ドングリ倶楽部」は、高齢級のトドマツ人工林が立ったまま枯れてしまう気象害に遭い、笹地となった雷別国有林（標茶町雷別）をフィールドとして、「広葉樹の森林づくり」（自然再生）等に取り組んでいるボランティアの方々の集まりです。今年度は新規会員 6 名を含む 25 名で、森林づくり活動等を 3 回行いました。

自然観察 8 月 28 日（水曜日）

第 1 回目の活動は、釧路市から約 45km、根釧台地のほぼ中央に位置する京都大学北海道研究林（標茶町多和）で自然観察を開催しました。

当日は同大学の見本林を観察した後、研究林を観察するため天然林遊歩道へ移動し、同大学のご厚意により研究林長にご解説をいただきました。

天然林遊歩道では、菌類や地衣類、エゾシカやヒグマ等の野生生物、研究林特有の森林生態等、様々な興味深いことをご解説いただき、会員の方々は質問をしたり、メモを取ったり、写真を撮影する等、自然観察を満喫していました。

会員の方々からは、「今後の広葉樹の森林づくりの活動に、参考となるお話を聞くことができた。」や「貴重な森林の観察と併せて、専門的な解説を聞くことができた。」等の声があり、当センター職員も有意義な一日となりました。



▽天然林遊歩道での解説を聞く様子

広葉樹の森林づくり 10 月 16 日（水曜日）

第 2 回目の活動は、雷別地区自然再生事業地の笹地 11（標茶町雷別）で、ミズナラ・ハルニレ・ヤチダモ計 100 本の植樹と植栽木をエゾユキウサギの食害から保護するため、保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。

はじめに、当センター職員から活動内容や注意事項等を説明するとともに、植樹の実演・指導を行った後、会員の方々は苗木の入った袋と鍬やスコップを手に取り、植樹箇所へ向かいました。

会員の方々は、雷別国有林での植樹活動を楽しみにしていたようで、用意していた苗木は 1 時間程で植え終わり、その後は昼食まで時間を利用して、保護管の組立てを行いました。



▽植樹の様子

午後からは、全ての保護管の組立てが終わり、植栽箇所へ運ぶこととなりましたが、会員の方々は保護管・支柱の運搬、保護管の被覆と役割を分担して行う等、1日を通して手際の良さが際立ち、予定していた時刻より早く日程が終了しました。

会員の方々からは、「植樹の機会をもっと増やしてほしい。」や「植えた木々の生長が楽しみ。」等の感想がありました。

次年度の計画を検討 2月5日(水曜日)

第3回目の活動は、今年度の活動を振り返るとともに会員の方々の意見を踏まえて、次年度の活動計画の検討を行いました。

出席された皆さんからは、「現地での活動回数を増やしてほしい。」や「植樹した植栽木の生育状況を見たい。」等の意見があり、次年度の計画を確定しました。



▽検討の様子

【野生生物調査】

当センターは、平成20年7月から北海道野生生物観測ネットワークに参加し、国立研究開発法人森林研究・整備機構「森林総合研究所北海道支所」から技術支援を受けて、自動撮影装置による中大型ほ乳類の調査を行っています。

この調査は、撮影頻度という量的なデータに基づいて、中大型ほ乳類の生息動向を探る試みで、赤外線感知装置付きのデジタル式自動撮影カメラを道路沿いに設置し、野生生物が装置の前を通ると24時間、自動的に撮影されます。当センターでは、パイロットフォレスト国有林の6箇所で開催・データ収集を行っており、処理したデータは同研究所北海道支所へ提供し共有しています。

令和元年度は7月と9月にそれぞれ21日間程度、調査を実施しており、当該調査箇所ではアライグマ等の生態系に影響を及ぼす野生生物は撮影されていませんが、今後もこの調査を継続し、森林の変化や野生生物の生息動向を注視していきたいと考えています。



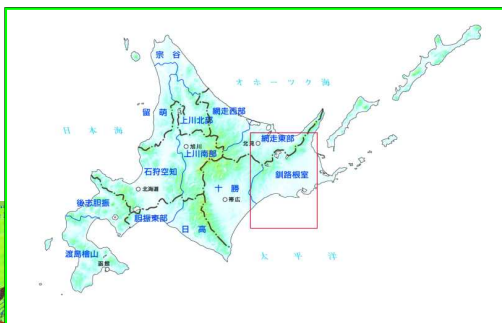
▽タンチョウ(令和元年9月P3)



▽エゾシカ♂(令和元年9月P3)

活動区域及び所在地

当センターは、根釧西部森林管理署が管理・経営する国有林（釧路市・釧路町・厚岸町・浜中町・標茶町・弟子屈町・鶴居村・白糠町の1市6町1村）が主な活動区域です。



林野庁 北海道森林管理局

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【TEL】0154-44-0533 【FAX】0154-41-7305

http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html



表紙：「くしろ木づなフェスティバル」で「お山ん画」の説明を聞く子どもたちの様子。詳細は6頁をご覧ください。